

**平成 19 年度総合型地域スポーツクラブ育成推進事業**  
**福井県・福井市 『総合型クラブ創設セミナー』開催報告**

日 時 平成 19 年 12 月 18 日（火）14：00～16：00  
場 所 福井県営体育館 研修室  
参 加 者 福井県内市町の行政担当者、体育協会理事長及び事務局長、体育指導委員など  
56名

実施内容 1. 発表『総合型クラブ育成の現状について』  
2. 啓発用 DVD 放映  
3. 講演『行政支援の在り方について』

### ○発表『総合型クラブ育成の現状について』

本会事務局の根本課長より、総合型クラブ育成の現状について説明された。

まず、総合型クラブ育成事業が始まった背景として、スポーツ振興基本計画の柱の1つである「生涯スポーツ社会の実現に向けた地域におけるスポーツ環境の整備充実方策」が位置づけられているとし、スポーツ実施率の向上を目的に、その具体的施策として総合型クラブを地域に創設があるとした。総合型クラブづくりが始まってから、内閣府の調査では約34.7%（1997年）のスポーツ実施率が約44.4%（2006年）に向上している。

なぜ、総合型クラブなのかということ、スポーツを取り巻く社会状況の一例として「行政スポーツサービスは地域住民の多様なニーズに応えられなくなってきている」「学校部活動の衰退」などを挙げ、このような現状を総合型クラブの特性で改善が図られるのではないかとした。そしてこれまでのスポーツクラブとの違いを「地域住民が主体的に、受益者負担の原則により自主運営する」点にあるとした。

次に、総合型地域スポーツクラブ育成推進事業について、本会のこの事業に対する事業体制や各種関係団体との連携体制、都道府県体育協会委託事業や育成指定クラブ委託事業の説明がされた。

次に総合型クラブ育成の状況として、全国そして福井県の現状について説明された。現在福井県では、17市町のうち6市町において10クラブが設立し3クラブが準備中である。育成率は35.3%であるが、市町村合併により、育成率が向上しているものの、クラブ数が増えていないとした。

最後に、総合型クラブの成果として「地域コミュニティが再生してきている」という声をよく耳にするようになってきた。総合型クラブ創設へ向けた活動へ一歩踏み出し、少しでもこのような声が聞こえるように参加者らも是非取り組んで欲しいとした。

### ○講演『行政支援の在り方について』

宮崎県えびの市教育委員会の奥松成安氏（九州ブロック地方企画班）による「行政支援の在り方について」クラブや行政としての取り組みについて、事例を織り交ぜながら講演された。

奥松氏は、総合型クラブに携わる以前は行政として、これまでと同様にスポーツ事業を実施していればそれでよいと思っていた。しかし、それではいけなかった。地域住民の視点から考えたときに「スポーツをやりたい人しか行っていない。」「スポーツ施設の有効利用ができていない」など、スポーツを取り巻く環境が整備されていないと感じた。また、地域では「人と人との関係の希薄化」「高齢化」の問

題も起きている。これらの問題に対しスポーツを通して解決しようとし、総合型クラブに取り組んだとされた。

クラブ作りの理想は『地域住民だけで設立し運営していくこと』ではあるが、現実には行政の協力が必要である。準備の段階では行政主導になるかもしれないとした。また、最重要課題として、行政の立場として「総合型クラブの推進」を市町村のスポーツ振興基本計画や教育基本方針などに位置づける必要性を訴えた。この位置づけこそがクラブ活動において、地域住民や関係団体に協力を求め、行政として支援する上でとても重要な要素であるとした。

クラブ創設の準備を開始した当初は、地域住民にクラブの取り組みやスポーツに対してお金を徴収するということが理解してもらうことはとても大変であった。しかし、子供の将来のため、地域の未来をよりよくしていくための活動であるということを、地道に説明していくことで、少しずつではあるが、理解者やクラブ会員も増えてきているとした。

最後に奥松氏は、「クラブは、10年・20年先に地域住民だけで運営していければよい。あせることなく一歩ずつ前に進むことが大切。行政として『最大限の支援から最小限の支援へ。』熱意と情熱を持ってできるところからクラブ作りを始めましょう。」と参加者にメッセージを送り締めくくられた。